中国一人っ子世代の親子・親族関係②
――結婚・子育てからみる母娘関係と家族のあり方――

陳　予茜（明治大学・院）

１．背景と目的

本報告は、中国の一人っ子女性の結婚、子育てにおける母親との関係性をふまえたうえで、一人っ子女性の親子関係、および家族のあり方について考察する。

これまでの結婚のあり方では、女性は結婚することによって父方の人間から夫方の人間になる。つまり親にとって既婚の娘は、「泼出去的水（撒いた水）」であり、他の家の人間になるのである。ゆえに、結婚後の女性は夫方の家族に包摂され、女性の家事や育児は姑の協力と監視のもとで行なわれてきた（李 2010）。しかしながら1990 年代以降の経済システムの転換、学歴社会の進行、文化観念の変化にともなって、若年女性の家庭内における地位と価値は上昇してきた（Yan 2006）。結果として、若年女性は実親と緊密な関係を築き、親子間の物質的、日常的、情緒的な相互援助が頻繁になった（鐘・何 2014）。また、地位の上昇とともに若年女性は家庭生活の主導権を握ることができるようになり（唐ほか 2009）。さらに子どもが一人っ子の場合、親は子どもの性別を問わず、子どもの結婚、家事、育児にサポートを提供している。とりわけ、一人っ子女性の親も娘の結婚や子育てに対する資源とサポートの提供を通じて、本人、および娘の夫方の家族に対する発言権と影響力を増大させることが指摘されている（鐘・何 2014）。

このように一人っ子女性は、従来の女性と異なり、結婚後も実親と緊密な関係性を保っているといえる。本報告は、こうした親子関係がより親密だと考えられる一人っ子女性の母娘の関係性に焦点を当て、母親が子どもの結婚、子育てにいかに関わってくるのか、一人っ子女性が母親の関わりをいかに捉え、対応するのか、母娘の関係性は一人っ子女性の家族に対する考え方に変化をもたらすのかについて考察する。

２．対象と方法

本報告は 2019 年 8 月に浙江省の紹興市で実施したインタビュー調査のデータを用いる。調査対象者は、母親が健在で、子どもをもつ既婚の一人っ子女性 10 名（1980 年代生まれ 6 名、1990 年代生まれ 4 名）である。それぞれのインタビューは 1 時間から 1 時間半をかけて実施した。調査対象者の許可をえて録音した音声データを日本語に翻訳しながら文字起こししたものを一次データとして分析する。

３．結果

対象者の母親は対象者の子育てに日常的、物質的、情緒的な援助を提供し、対象者の重要な協力者となっていることがわかった。しかし子育てにおいては、「科学重視」の対象者と「経験重視」の母親の間には意見の対立が頻繁にみられた。つまり対象者は母親を協力者とみなしているが、子育てを通して母親との関係性を再構築しようとしている。また母親との関係性は対象者と姑の関係性にも影響を及ぼしていることが示唆された。対象者がそれぞれの家族を、実家（娘家）／婚家（婆家）ではなく、親の家（父母家）／義理親の家（公婆家）／自分の家（自己家）と呼んでいることから、家族に対する捉え方が従来とは異なっていることが推察される。対象者は子育てをきっかけに、両側の母親と協力や交渉をし、自分の家を築いている。他方で両側の母親は、対象者との関係性を通じてそれぞれの目的や利益を追求している。これらの調査結果から、三つの家族は互いに境界線を引きながらも互いを包摂しようとしていることが示唆される。

＜参考文献＞

李霞，2010，『娘家与婆家』，社会科学文献出版社.
唐灿・馬春華・金石群, 2009，「女儿赡养的伦理与公平」『社会科学研究』, 18–36.
Yan, Yunxiang, 2006, “Girl Power: Young Women and the Waning of Patriarchy in Rural North China,” *Ethnology,* Vol.45 (2):105-123.
鐘晓慧・何式凝，2014，「协商式亲密关系：独生子女父母对家庭关系和孝道的期待」『开放时代』, 155-175.

（キーワード：一人っ子、母娘関係、家族関係）
謝辞：本研究は JSPS 科研費 JK19K02052 の助成を受けたものです。